

令和5年度（2023年度）北海道社会教育セミナー 事業報告書

○ 事業の概要

1 事業名

令和5年度（2023年度）北海道社会教育セミナー

2 開催日時

令和5年6月1日（木）10:00～17:00

令和5年6月2日（金）9:30～12:00

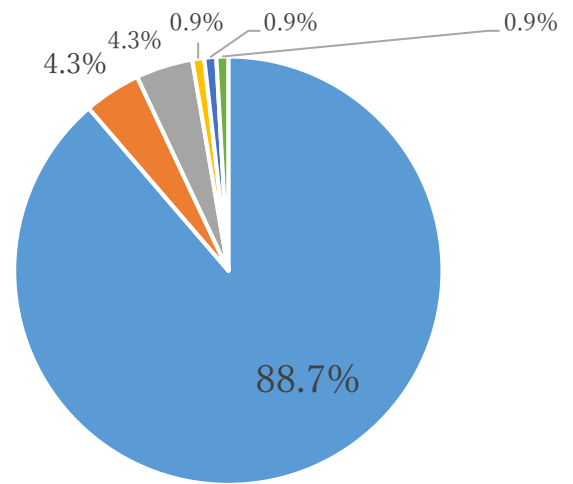
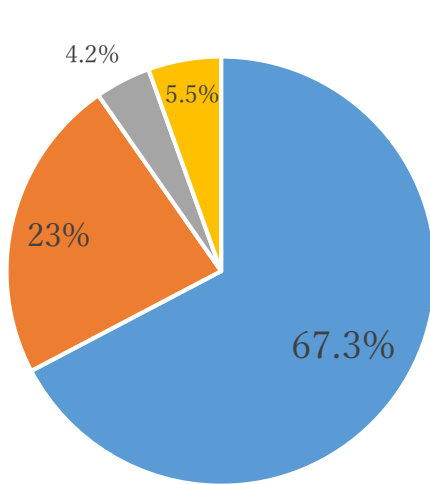
3 開催場所

道民活動センタービル「かでの2・7」、オンライン（配信場所：かでのアスビックホール）

4 参加人数・市町村数

187名参加（うちオンライン59名） 116市町村

5 参加者の社会教育、生涯学習に携わっている経験年数・参加区分



■ 1～5年目 ■ 6～10年目 ■ 11～15年目 ■ 16年目～

■ 生涯学習・社会教育担当職員
 ■ 生涯学習・社会教育関係施設及び青少年教育施設等職員
 ■ 生涯学習・社会教育関係団体職員、民間団体関係者
 ■ 道・振興局・市町村首長部局職員
 ■ 社会教育士（行政職員以外）
 ■ その他

※ 1 端末で複数人参加した場合は代表者のみのデータ

6 プログラム

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1日目		受付 開会	講話	行政説明	テーマ説明	昼食・休憩	基調講演 オンライン (zoom) 参加あり	移動	研究協議① 基礎講座①
2日目		研究協議②			閉会				
		基礎講座②							

(1) 講話、行政説明、テーマ説明

講話「現代社会における社会教育の役割」

講師 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長補佐 榎木 奨悟 氏

○社会教育の現状

生涯学習と社会教育、公民館（類似施設）の設置状況、公民館の職員数、運営体制、都道府県・市町村教育委員会に置かれる社会教育主事の推移等について

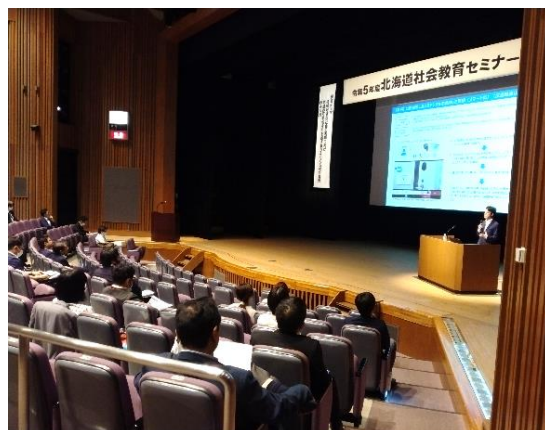
○社会教育に係る議論の状況

第11期中央教育審議会生涯学習文科会における議論の整理

- ・生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題
- ・生涯学習・社会教育が果たしうる役割
- ・今後の生涯学習・社会教育の振興方策

○今後の方向性

社会教育人材、社会教育施設、現代的課題への対応における各種事例をもとにした今後の方向性について



行政説明「北海道教育推進計画に係る社会教育の振興方策について」

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課課長補佐 五十嵐 秀介

○推進計画の策定について・・・策定趣旨、性格、期間

○北海道の現状と課題・・・社会情勢の変化、子どもたちや教育の現状

○北海道が目指す教育の基本理念・・・自立、共生

○施策 施策項目19 地域と学校の連携・協働の推進 → 地学協働、北海道CLASSプロジェクト

施策項目20 生涯学習・社会教育の振興 → 道民カレッジ、体験活動（ネイパル）、読書活動の充実

施策項目22 芸術文化活動の推進 → 芸術文化に接する機会、学校教育活動への支援の充実

テーマ説明「研究テーマ『持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方』について」

北海道立生涯学習推進センター主査 中西 めぐみ

○これまでの研究テーマと研究のまとめ（R1～R4）について

○令和5年度からの新たな研究テーマとそのポイントについて

○サブテーマの設定と研究プロセスのイメージについて

○1年間の流れについて

(2) 基調講演



演題 「持続可能な社会の実現に向けた社会教育のあり方」

講師 文教大学准教授 青山 鉄兵 氏

○社会教育の課題としての「持続可能性」を捉える視点

- ・「持続可能性」への社会的な関心の高まり
- ・「持続可能性」の捉えにくさ

「持続可能性」というキーワードの急速な普及

- ・抽象的 ・何を持続するのか ・前提は「開発」
- ・政治性 ・言葉の一人歩き

「持続可能性」・・・本来は考えるためのキーワード
→考えないために使われている

○「持続可能な社会」に向けた学びのあり方とその支援

- ・地域や暮らしをつくっていく学び
- ・社会問題を解決するための学び
- ・命を守るための学び
- ・共に生きるための学び
- ・変わり続けるための学び
- ・行動するための学び



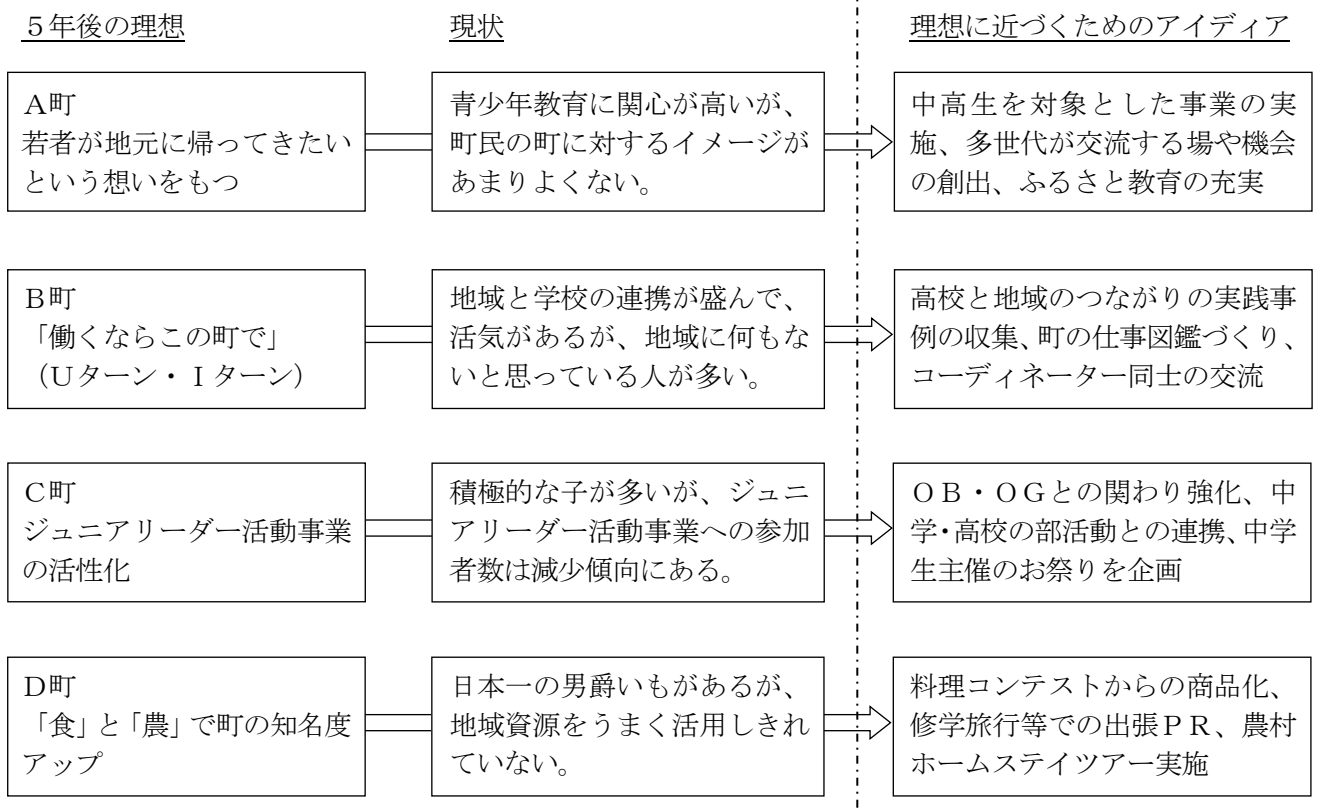
「持続可能性」を「考えるきっかけ」に

(3) 研究協議、基礎講座

研究協議

進 行 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課社会教育主事
ね ら い 研究テーマに係る現状や課題を明確にする過程を通して、
事業内容や支援方法の工夫改善を図り、今後の地域での
活動について展望を持つ。

研究協議では、ターゲット（地域住民、施設利用者、事業参加者）
の5年後の理想と現状を比較し、ギャップや足りないものから、
理想に近づくための取組を考えた。参加者は、地域の制約や弱み
というマイナス要素をプラスに転換させる練習や他の参加者から
のアドバイスを参考としながら、アイデアを広げていった。



各管内で研究テーマを深めたり
焦点化させたりするヒントに



基礎講座

講 師 文教大学准教授 青山 鉄兵 氏

ね ら い 社会教育に関する基本的な事項についての理解を深め、
各市町村における業務推進のヒントとする。

- 「生涯学習・社会教育に関する基礎的事項や今日的な課題について」
 - ・社会教育における「教育」と「学習」のかたち
 - ・「生涯学習」というアイデア
 - ・社会教育行政のこだわり
 - ・〈人づくり〉と〈地域づくり〉の循環を生み出す社会教育へ
- 「地域づくりに向けた社会教育事業の企画・運営に向けて」
 - ・事業に「地域づくり」の視点をどう組みこむか
 - ・ファシリテーションの技法

○ 成果と課題

参加者アンケートをもとに、成果と課題を整理する。

参加者アンケート回収率 89.8% (回答数 115/参加者数 128)

参加者アンケート実施方法 アンケート質問紙への記入

1 セミナー全体の満足度

肯定的評価

全体 99.1% 講話 98.3% 行政説明 96.5% 基調講演 100% 研究協議 98.8% 基礎講座 100%

- 実践的なワークショップで意見交換できたのがよかった。
- 普段、道内各地の社会教育関係の方々と交流する機会がないので、とても刺激的だった。
- 社会教育の根本に触れられる内容でよかった。
- 全体を通して学びあるとても有意義な研修だった。
- しっかり講演で知識を深めたあとの研究協議だったので理解が深まった。
- 全体のバランスやプログラムの順番がとてもよかった。
- 経験年数やレベルによってプログラムを分けているのがよかった。
- ワorkshopによる交流がよかった。
- あやふやに思っていることを教えてもらい、学びが多かった。
- 「持続可能」ということと「社会教育」ということについて考えることができた。
- つながりづくり、社会教育を実践するにあたり、他町村の取組を知ることは大変刺激になった。
- 全道各地の様子を知ることができて、刺激を受けた。
- 初心者向け（経験年数の少ない人向け）のプログラムが設定されていたため参考になった。
- 社会教育について改めて学び、考えることができた。
- 改めて社会教育と向き合い考えるよいきっかけとなった。
- 社会教育について難しく考えていた部分もあったが、理解度が上がった。
- 基礎講座を受けてから基調講演を聞いたかった。
- 初日の午前の部は資料を生かして深掘りするなどさらなる工夫ができる。

- 全てのプログラムにおいて肯定的評価の割合が高く、参加者の満足度は高かった。
- 参加者の多くが他の地域との意見交流・情報交換を求めているため、対面型での実施が肯定的評価につながったと考えられる。

2 各プログラムについて

<講話、行政説明、テーマ説明>

- 現代の課題や問題をひとつずつ丁寧に解説してくれてよかった。
- 社会教育行政の役割を再認識する機会となった。
- 「そもそも社会教育とは」という基礎的なところを一から聞いたのがよかった。
- 社会教育や生涯学習の求められていることを知ることができた。
- タクシーアプリと高齢者のスマホ所持について参考になった。
- 補助金の話が聞いたのがよかった。
- 道の推進計画について経緯や根拠を確認することができた。
- 北海道の課題等を知ることができた。
- 研究テーマについて細かい部分や流れを知ることができた。
- テーマ設定までの流れがわかりやすかった。
- 講話を参考にしながら事業や計画について改善していきたい。
- ウェルビーイングの重要性、地域コミュニティの強化、デジタル社会に対応したまちづくりについての理解が深まった。
- わかりやすかったが、短い時間に内容を詰め込みすぎていると感じた。
- (基本的なことがわからないため) 話が難しく感じた。

<基調講演>

- 青山先生の講義がとてもわかりやすかった。(複数回答)
- チャットアプリ「スグキク」の活用がとてもよかった。(複数回答)
- 青山先生の話すテンポ等もよく、聞きやすかった。
- 青山先生の話が大変勉強になった。話術に引きつけられた。
- 社会教育主事講習で知った青山先生の講話をまた聞くことができ、参考になった。
- 講演の内容だけでなく、手法もよかった。
- 何事も前向きに捉える青山先生がよかった。
- 社会教育とSDGsのつながりについて考えるきっかけとなった。
- 社会教育の概念を捉え直すきっかけになった。
- 社会教育の現状がよくわかる貴重な話だった。
- 「持続可能な社会」というワードはあくまで考えるきっかけに過ぎないという言葉に納得感があった。
- 持続可能な社会の実現に向けての社会教育の役割を具体的に理解できた。
- 堅苦しい内容でなく参加型だったのがとても参考になった。
- 内容もさることながら、アプリを使って参加者と対話しながら進めるのが新鮮だった。コメントが読まれるとうれしい。
- 「スグキク」を使った双方向のやり取りにより会場全体で考えていくやり方がよかった。いろいろな人の意見をリアルタイムに聞かせてよかった。

【参考】

「スグキク」・・・リアルタイムアンケートツール「イマキク」に参加するためのツール。参加者の「スグキク」の画面に講師（「イマキク」操作）からの質問が表示され、投票やコメント投稿の形式で回答することで、リアルタイムでの双方向のやりとりが可能となる。（参加者の個人端末を活用）

<研究協議・基礎講座>

- 少人数のグループで深く話し合うことができた。
- 同じような条件の町村の方と意見交換ができ、自分にはない考えも聞けてよかった。
- 各地域の課題や特色を知ることができ有意義だった。
- 他の町の話や直接聞くことができ本当によい交流だった。他の方のファシリテーションが上手で勉強になった。オホーツクの発表に熱を感じた。
- 活発に意見交換できてヒントをたくさんもらうことができた。
- 同じ規模の町村グループは話しやすかった。
- 他の町の事情や悩み、良い所をたくさん聞けて参考になった。
- グループワークが充実した。
- 大変有意義だった。進行もとてもよかった。
- 様々な実践とみなさんの理想を聞けてとても楽しかった。
- 他の市町村の実態を知ることができた。横のつながりができてよかった。
- 講座とグループワークが共に参加型で実践的な学びができた。
- 事業を企画・運営する上での手法を勉強することができた。
- 具体例を挙げて考えられたので知識を深められた。
- グループワークを通し、様々な方と意見交流をすることができてよかった。
- 社会教育の考え方について知ることができた。
- 社会教育の基礎について、一から学ぶことができた。
- 社会教育の基礎の確認ができ、ファシリテートの技法を学べた。
- もう少し時間に余裕のある設定をしてほしい。ワークのボリュームが少し多かったと思う。
- 事前にテーマややる内容がある程度わかればもっと深い話や討議ができると思う。
- 研究協議で青山先生の助言、コメントがほしかった。

- 講師との双方向のやりとりや参加者同士の交流の場等の設定により、参加者がより主体的に取り組もうとする姿が見られた。
- 経験年数等によるプログラム編成や市町村の規模でのグループ編成によって研修の効果が高まったと考えられる。

3 運営・実施方法について

- ・受付に資料の予備があるとよい。
- ・長時間、ホールに座るのは体が痛かった。
- ・1日で終わらせてほしい。
- ・プログラムの合間に休憩があるとよい。
- ・当日配布資料に間違いがあった。(研究協議の部屋番号)
- ・資料の配信がわかりにくかった。
- ・民間企業の人でも参加できるように土日祝のオンライン開催等があるとよりよいと思う。
- ・アンケートはQRコードがよい。(フォーム入力)
- ・2日間だと交流できる人が限られると感じた。

資料の配信やアンケート方法については、よりよい方法の検討が必要。アンケートをフォーム入力にした場合、アンケート回収率を低下させないための手立てがあるとよい。

日程については令和6年度も2日間(木・金)で実施の予定。

4 「地域生涯学習活動実践交流セミナー」(2月実施)に向けて

- ・対面方式がよい。(複数回答)
- ・オンライン配信の併用を希望。(複数回答)
- ・オンライン開催希望。
- ・より多くの参加者と交流できる場がほしい。
- ・グループ協議は必ずあった方がよい。
- ・他の地域の人と一緒に企画を立ててみるような研修がしたい。
- ・他の地域の事例が聞けるような内容があるとよい。
- ・業務上の課題について話し合う場があるとよい。クレーム対策など、実際に困っていることへの対応や解決策についても交流したい。
- ・今回と同じグループ編成にして、その後どうなったかを報告し合えとおもしろいと思う。
- ・今回の研究協議でまとめたことを実際に取り組み、その過程を交流できるような内容がよい。
- ・各管内でそれぞれに設定したサブテーマのもと、どのように研究していったのかを知りたい。

5 その他(感想)

- ・参加者がとても少なく驚いた。もっと多くの人に参加してほしい。
- ・社会教育は地域の住民全員ができるものと改めて感じた。ぜひ、行政職員以外の住民にも聞いてほしいと思った。もしくは企業側がこのようなセミナー参加をすすめてくれる環境になるとよい。
- ・社会教育の捉えがあいまいだったが、難しいものではなく人生に起こるいろいろな状況を学びとして肯定する懐の広いものだと感じた。
- ・研究テーマについて説明があったが、そもそも「研究」はどのような位置づけのものなのかという根本的疑問が浮かんだ。
- ・高校のコーディネーターの話がもう少しできるとよい。
- ・社会教育の概念の範囲の広さがわかり、社会教育で学ぶべきことの広さを感じた。
- ・社会教育に「気候変動」や「生物多様性」といったテーマを扱う場合について触れてほしい。
- ・全般通して、初心者に寄り添った説明だった。

多くの参加者が対面型の研修を望んでおり、対面型での実施がセミナー全体の趣旨にも合致するところであるが、オンラインでしか参加できないという声も少なからずある。そのため今後も対面型に一部オンライン配信を取り入れたハイブリッド型での開催が望ましい。(オンライン配信の範囲については要検討)

プログラム編成(経験年数等での振分け)、グループ編成(市町村規模別)については概ね好評だったが、参加者によるプログラム選択や市町村規模別以外のグループ分けについての要望もあった。次年度のプログラム内容や研修効果等を含め検討していく。

講師によるチャットアプリの活用が非常に好評だったため、今後も同様のスタイルが望まれることが想定される。他のプログラムにおいても、双方向性の導入について検討していくとよい。

プログラム順や休憩時間の設定など、よりよい形で設定できるように検討していく。